

基本理念

常に患者さんとご家族の立場に立って考え、行動します。
そして、医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えるよう、職員一同頑張っています。

基本方針

- 1、信頼され、安全性の高い医療サービスを目指すため
職員の研鑽と協調に努めます
- 2、患者、家族、職員がお互いに尊重し合い、ともに喜び、
生き甲斐がもてるようチーム医療を推進します
- 3、地域に根ざした、住民とともに歩む病院（施設）を
目指します
- 4、病院（施設）の質を高め、健全経営に努めます
- 5、職業を通して、社会人としての豊かな人間性を養います



医療法人和同会 -五日市和同会-



交通アクセス

- 自動車
西広島バイパス木舟交差点・波出石交差点から、
県道41号五日市・筒賀線を北に約10分
※駐車場をご利用ください
- バス
JR五日市駅（北口）より広電バス湯来線（藤の木団地行
・湯来ロッジ行）乗車、河内下城バス停より徒歩5分

〒731-5152 広島県広島市佐伯区五日市町下河内188-6
<http://www.gh.wadoukai.jp>

- 広島グリーンヒル病院
TEL 082-929-1110 FAX 082-927-2225
- 広島グリーンヒル病院介護医療院
TEL 082-927-2511 FAX 082-927-2225
- 介護老人保健施設 五日市幸楽苑
TEL 082-927-2511 FAX 082-927-2225
- 五日市幸楽苑 通所リハビリテーション
TEL 082-927-1611 FAX 082-927-2225
- 訪問看護ステーション ハローナース五日市
TEL 082-927-0700 FAX 082-929-1114
- 認知症対応型共同生活介護 グループホーム五日市
TEL 082-927-2511 FAX 082-927-2225
- 居宅介護支援事業所 なごみ
TEL 082-929-0753 FAX 082-927-2229

五日市和同会だより

第52号
令和7年1月

発行：広島グリーンヒル病院
編集：広報委員会



謹賀新年

新年あけましておめでとうございます

2025年は「巳年（へび年）」さらには周期の干支の「乙巳（きのとみ）」
と言われる年で、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年」
です。

五日市和同会もこれまで以上に医療・介護・福祉の分野で変化、成長し、
地域に貢献できるよう職員一同頑張っていますので、本年もどうぞ
よろしくお願いいたします。

介護医療院のご紹介

これまで「介護老人福祉施設」、「介護老人保健施設」、「介護療養型医療施設」の3施設だった介護保険施設に、平成30年(2018年)4月から「介護医療院」が追加され、令和6年(2024年)3月末で「介護療養型医療施設」は廃止となりました。当院も令和2年(2020年)4月からこれまでの「介護療養型医療施設」から「介護医療院」へ転換しました。

特徴1：他施設からの転入が容易

介護医療院は「在宅扱い」になるため、急性期病棟・回復期病棟・地域包括ケア病棟や他の施設からの転入が容易です。

特徴2：医学管理下で長期間の療養が可能

医師・看護師等が24時間対応し、主として長期にわたり療養が必要な方に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理下における介護および機能訓練、その他必要な医療並びに日常生活上の支援を行うことを目的とする施設です。

特徴3：プライバシーに配慮した入居部屋

長期に療養生活を送っていただくにあたり、間仕切り家具によるパーテーションを設置し、プライバシーに配慮した療養環境を整備しています。



地域公開講座

当院は基本方針の中に「地域に根ざした住民とともに歩む病院(施設)を目指します」と掲げています。その一環で地域の方々にも貢献できる取り組みとして五日市和同会教育委員会では令和6年10月19日(土)10:00~11:00に地域公開講座を開催しました。昨今、長寿社会の日本では人生の最終段階における取組が重要視されています。今回の講座のテーマは「ACP(アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)について考えてみよう」と題してこれからの豊かな人生を目指して、少しでも理解を深めて頂けるよう企画しました。



講師には、広島県看護協会訪問看護ステーション所長で広島県ACP普及推進委員でもある道法和恵先生をお招きして、ACPについての講義と「もしバナカード」を使って「人生の最期に自分がどうありたいか」を周囲の人々と考えるゲームを行いました。講義では先生のとてやさしい語りが印象的で、グループ毎に行った「もしバナゲーム」は、参加者同士の思いを共有する貴重な体験となりました。

参加者は36名でアンケート実施者全員が講座への期待・題材の期待は「やや満足」以上の評価で、具体的には「改めて人生のあり方を考えることが出来た」「もしバナカードをやってみて将来の事、自分の最期に希望することを考えることができた」などACPについて身近に考える機会となり好評でした。

今後も地域の方々に貢献できるような地域公開講座を開催したいと思います。

五日市和同会教育委員会 松村鶴代

地域公開講座
主催 広島グリーンヒル病院
介護老人保健施設 五日市幸楽苑

永年勤続者表彰

療養病棟にご縁を戴いたのは、広島グリーンヒル病院が初めてです。それまでは急性期病院で勤務していたため、入職当初は戸惑いや葛藤を感じる日々でした。介護療養病棟からスタートし、介護医療院への転換、現医療療養病棟への配置転換の経験を踏まえた今の思いを寄稿致します。

これまで、教育関連・感染管理・医療安全・看護管理(ファーストレベル)とたくさん研修に参加させて頂きました。受講の度に自身の知識をブラッシュアップし、実践での経験知を深めることができたと感じています。また、看護師から看護主任への昇任、そして部署責任者としての役割は、自身を成長させる経験と理解していますが、難しいこともあります。そのような折に、永年勤続10年表彰を頂きました。現在の職場は、患者さんの最期に関ることが少なくない療養の場です。だからこそ、その日までその人らしく、穏やかな日々を紡いでいただける療養の場の実現を職員と共にめざしたいという思いを新たにすることができました。

関係各所の皆さまに感謝申し上げますとともに、今後ともご指導くださいますようお願いいたします。

4病棟看護主任 宮崎三恵子



介護医療院でのリハビリの大切さ

介護医療院は、長期的に介護を必要とされる方のための入所施設で、“寝たきり”や“看取り”などのイメージから自宅へ帰るといふリハビリとは縁遠いと思われがちですが、入所者様の中には、住み慣れた自宅や施設へ退所される方もいらっしゃいます。充実した生活ができるよう、主治医、病棟スタッフともに情報共有しながら支援を心掛けています。

介護医療院のリハビリは、入所後3ヶ月間は週5回、3ヶ月以降は週3回程度です。この度、より自宅に近い高齢者住宅へ退所になった入所者様は、3か月間、主に体力の回復、歩行訓練などを中心にリハビリに取り組み、気力も徐々に取り戻されました。長期的な関わりが多い中で、それぞれの方に適したリハビリの必要性を改めて感じました。

<入所者様の声>

約3ヶ月間の入所生活は、長いようで振り返れば短く感じた。最初は食欲もなく、リハビリも面倒に感じたが、少しずつ元気になってリハビリして良かった。体を動かすことを続けるようにしたい。次の目標は「近くのラーメンを食べに行く事!!」



理学療法士 中山美恵子

栄養課発

12月25日 クリスマスメニュー



サフランピラフ
カルパッチョサラダ
ポタージュ
ケーキ



★クリスマスケーキのお話★

日本のクリスマスケーキと言えばイチゴと生クリームがたっぷり使われたショートケーキが一般的です。このスタイルが一般的になったのは戦後の経済成長期の頃で日本の洋菓子店が「特別な日のご馳走」としてクリスマスにケーキを提案したことが始まりです。本場ではイチゴのショートケーキをクリスマスに食べる習慣はなく日本独自のものです。ドイツでは「シュトーレン」、フランスでは「ブッシュドノエル」がクリスマスのお菓子としてよく食べられます。